

“人工関節センターのホームページが完成しました”

インターネットは、どんな情報にも簡単にアクセス出来るのがメリットです。その反面、情報は氾濫し、どの情報が正しく、どれが間違っているかを見極めるのは、専門家ですら非常に難しくなっています。

当センターは、皆さまの口コミや近隣の先生方からのご紹介など、今まで通りに顔の見える形で信頼を築いていく方針ですが、ホームページ作成の要望の声が以前より多くありました。

関節の病気や人工関節の説明を含めた内容で分かり易く作成しましたので、相原病院のホームページやYahooやグーグルなどで「相原」「箕面」「人工関節センター」などのキーワードで検索してみてください。ホームページを見て、「こうした方が分かりやすいよ！」などご意見がありましたら、お気軽にお伝え下さい。

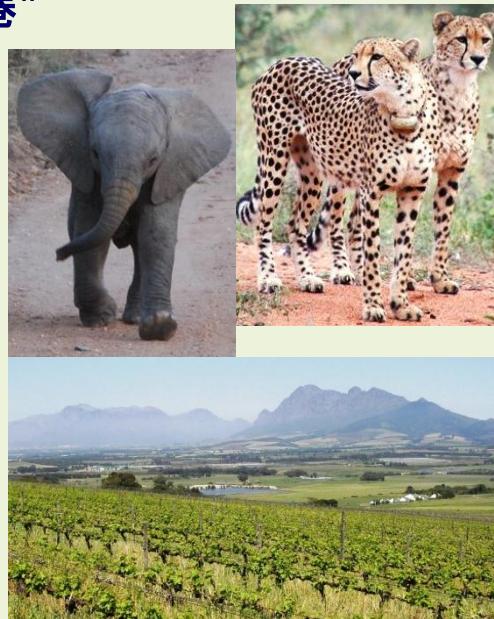
URL: <http://aiharajoint.com/>



センター長の海外探訪記 “南アフリカの巻”

南アフリカ共和国は、前回のアフリカ大陸初のワールドカップで有名になりましたが、以前は人種差別問題があり、若干暗い過去を背負っている国ですが、ダイヤモンドをはじめ、多くの地下資源があるばかりでなく、最近では観光やワインなどで注目度が上がっている国です。

ケープタウンはアフリカ最南西端の喜望峰、ペンギンやイルカの生息地や多くのワイナリーがありヨーロッパを彷彿とさせる街で、「本当にアフリカなのかなあ？」と思うはず。北東部には多くの野生動物たちに出会える“クルーガー国立公園”があり、こちらは素直に「アフリカだなあ〜」と感じるはず。ライオンやチーターが間近で見られますし、ゾウやキリンの親子の姿には本当に心が癒されます。遠いのが難点ですが、時間をかけてでも訪れる価値のある国ですよ！（首都などは治安が悪いのでツアーでの旅行をオススメしますが・・・）



この新聞の名称「ぶらな」とは、仏教の元言語となるサンスクリット語で“空気”や“清浄な気”を示す言葉です。我々は、関節や脊椎疾患に負けずに積極的に人生を楽しんでいきたい！と考えている“強い気”を持っている方々を応援する為に、色々な形で情報を発信していこうと考えています。

こんな情報が欲しい、こんな事をして欲しいなど希望がありましたら、お気軽にファックスでお伝えください。

「ぶらな」

“人生を積極的に生きる人を応援する医療情報誌”

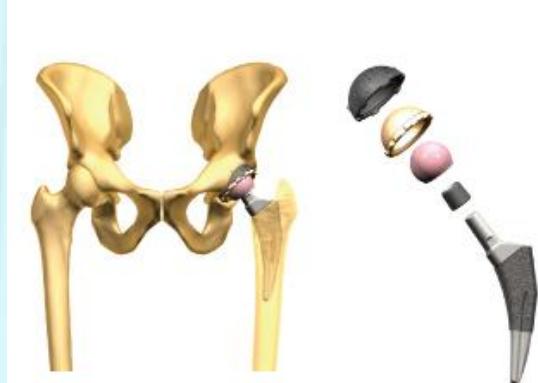
今年の冬は寒くて長かったです。春以降も天候不順で、夏は暑くなりそうです。今年も節電の夏になると思いますが、高齢者など身体的弱者が体調を崩されないか、心配しております。

我々医療機関も、多量の電気を必要とする施設ですが、可能な範囲で節電を行っています。外来・病棟などで、一部過ごしにくい環境があるかも知れませんが、ご理解とご協力をお願い致します。



“人工股関節の素材は何ですか？”

「セラミックの人工関節を使っていますか？」とよく聞かれます。セラミックは陶器ですので、日本人の得意分野ですし、強度のある素材として様々な工業製品に応用されています。



人工股関節の構造は、骨盤側にカップ状の“受け皿”を入れ、その内張りに軟骨の替わりになる「ポリエチレン」や「セラミック」や「コバルト・クロム合金」を設置します。

大腿骨側にはステムという“軸”になる人工関節を挿し込みます。その先に球状の“ヘッド”を設置します。

人工股関節では、このカップもステムもチタンかコバルト・クロム合金が一般的に使用されています。

セラミックは、このボール状の“ヘッド”か、カップの内張り部分に使用する材料で、骨の中に直接設置するものではありません。新しく形成される関節の表面が、「ポリエチレンとセラミック」であったり、「ポリエチレンと金属」であったり、「セラミックとセラミック」であったり、「金属と金属」であったりします。

セラミックや金属は硬い材料ですから、長期間使用してもほぼ削れる事はありませんが、セラミックは陶器なので割れる可能性があり、金属にはイオンの流出、ポリエチレンは削れる問題があります。しかし、2000年以降のポリエチレンは非常に削れにくくなっており、長期使用に耐えられるようになってきました。

素材に関しては、それぞれにメリットとデメリットがありますので、いまだにどの素材が最も優れているとの結論は出ていません。当センターでも、患者さんの骨の状況やサイズや年齢や活動レベルなどを考慮して、最も適していると考えられる素材を選択して使用しています。現代の医学・工学レベルでも、日々改良、開発されている分野なのです。

相原病院・人工関節センター新聞
第八号

2012年6月吉日

近隣病院の
人工関節手術数
(平成22年度)

病院名	症例数
相原病院(H23年度)	142
(H22年度)	136
箕面市立病院	32
ガラシア病院	87
市立豊中病院	80
市立池田病院	64
国立刀根山病院	43
宝塚市立病院	27
市立川西病院	25
済生会千里病院	46
北野病院	111
大阪医科大学病院	101
高槻赤十字病院	85



医療法人 啓明会
相原病院
Provides the best medical service

人工関節に特化した「人工関節センター」と乳がん診療に特化した「プレストセンター」を開設しており、より高度な専門医療を提供しております。

- 関節外来：岡 史朗 月・火・水曜午前9時から12時
- 関節外来：相原雅治 水・木・金曜午前9時から12時
- 脊椎外来：加藤泰司 隔週火曜 午後4時半から7時
- 理学療法士：岡本浩明・樋口慧・平田明日香
- 診察時間：平日午前9時から12時、午後4時半から7時
(水曜夜診休診)

土曜午前9時から12時 (祝日休診)
相原病院・人工関節センター tel. 072-723-9000
箕面市牧落3-4-30 fax. 072-723-9052
ホームページ: <http://www.aiharahp.com/>

新人紹介 “はじめまして、リハ科のアリスです！！”
リハビリテーション科・理学療法士 平田 明日香

名前:平田明日香(ひらた あすか)
ニックネーム:リハ科の先生からはAlice(アリス)と呼ばれています♥♥
生年月日:1986年9月17日
趣味:ロードバイク(バイクと言ってもレース用の自転車ですよ)、カメラ
特技:サッカー、フットサル(ミニサッカーの事です！)

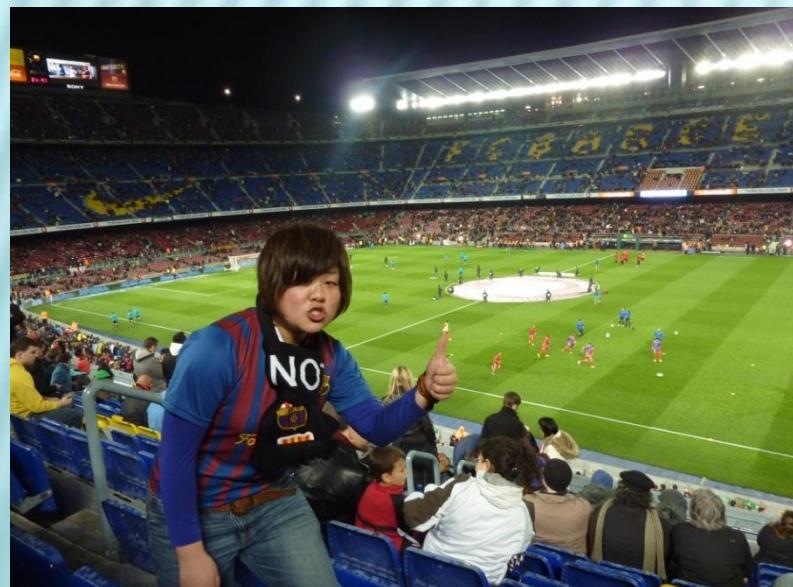
今年4月より相原病院で働かせていただいています、平田明日香と申します。それまでは関西労災病院で、整形外科、脳外科、心臓内科や外科といったさまざまな疾患の急性期リハビリを手広く行ってきました。

小学校2年生から続けていたサッカー(一時は“なでしこJapan”を目指していたんですよ!)の影響からか、整形外科領域に元々興味があり、休日には遠方まで整形外科リハビリの講習会や勉強会に参加していました。そうしていく上で、「もっともっと急性期の整形外科を極めたい!」と思っていたところに、尊敬する先輩である岡本先生にお声掛けしていただき、今年度より相原病院で働かせていただくこととなりました。

今は尼崎在住なのですが、箕面は自然が溢れていていいところですね!毎朝ロードバイクで小一時間くらい自転車をこいで通勤しているのですが、とても気持ちのいい仕事前のウォーミングアップになっています。

箕面の綺麗で澄んだ空気をいっぱい吸って、みなさんに誠心誠意をもってリハビリテーションをさせていただきますので、何卒これからも宜しくお願いします!

経歴: 2009年3月 藍野大学医療保健学部 理学療法学科卒業
2009年4月 関西労災病院 リハビリテーション科入職
2012年4月 相原病院 人工関節センター入職



この写真は3月にスペインへ旅行に行き、バルセロナFCの試合を観に行った時の写真です。メッシがハットトリック(試合中に3点ゴールを決めること)を決めて、とても良い試合でした!
しかし私、この後にスリ未遂に遭いました…。

みなさん!くれぐれも海外旅行するときは気をつけてくださいね!
でも楽しかったです★

“人工関節手術数が450件を超えました。”
センター長 相原雅治

平成21年4月から啓明会相原病院に人工関節センターが設立され、3年が経過しました。その間、順調に手術件数を伸ばし本年6月で人工関節置換術の累計が450件を超えました。旧病院からの手術数を加えると総数で585件を超えています。

手術件数は多ければいい訳ではありませんが、手術のテクニック、看護、リハビリのレベルを維持し、更に高めていく為には、ある程度の手術件数を必要とするのは自明の理ですし、それに関する報告は国内外で数多く発表されています。厚生労働省も人工関節の手術に関しては、年間50件未満の病院の手術手技料を減額した時期があります。(多くの病院がその条件を満たせなかったため、全国的に批判が起きて無くなった制度ですが…) 昨年の当院の手術件数は股関節が83件、ひざ関節が59件で合計142件でした。

現在の当センターの手術数は、近隣の公的病院などと比較しても遜色ない…と言うよりも凌駕する数字です。これは、当センターの自慢をしている訳ではなく、当院を選んで下さった皆さんに我々の実情と治療レベルをお知らせする目的で情報提供をしています。

厚生労働省が公表する各病院の手術件数は一昨年のデータで、最新の平成22年度のデータを調べますと、大阪府内362病院中、人工関節の手術を行っているのは200施設もあります。当センターの人工関節置換術数はその中の24位で、股関節に限れば全国でも100位ちょいです。まあ、順位にさしたる意味はありませんがね…。

関西は、日本国内でも人工関節の手術が積極的に行われてきた地域で、数多くの有名病院があります。しかし、多くは大阪市内以南で今でも北摂地域から多くの方々が関節が痛いにも関わらず、頑張って通院されています。ただ、手術は人生で何度も行うことではありませんので、ご自身やご家族の方々が納得される医師や病院で行うことが重要だと考えます。

ただ、大病院は若手医師の教育機関を兼ねていますし、医師もナースもリハビリの療法士も多数いる分、毎日担当が替わったりするのは、仕方の無い事ですし、医師はほぼ大学の医局から派遣されますので、早ければ数年で転職してしまいます。



アメリカで手術研修中の岡部長



学会発表後の相原センター長と岡本&樋口PT

我々は、医師も看護師も理学療法士もすべて顔の見える医療を目指しています。病気を治すのは大きな病院の看板や建物ではありませんし、基幹病院だから大丈夫!と云った根拠の無い信頼感でもないと思っています。

医療者と患者が手と手を取り合ってお互いが努力をして、ひとりひとりをキッチリ治していく。これからも着実に経験を重ねて、誠実な医療を目指して頑張っていきたいと我々スタッフ一同は考えています。